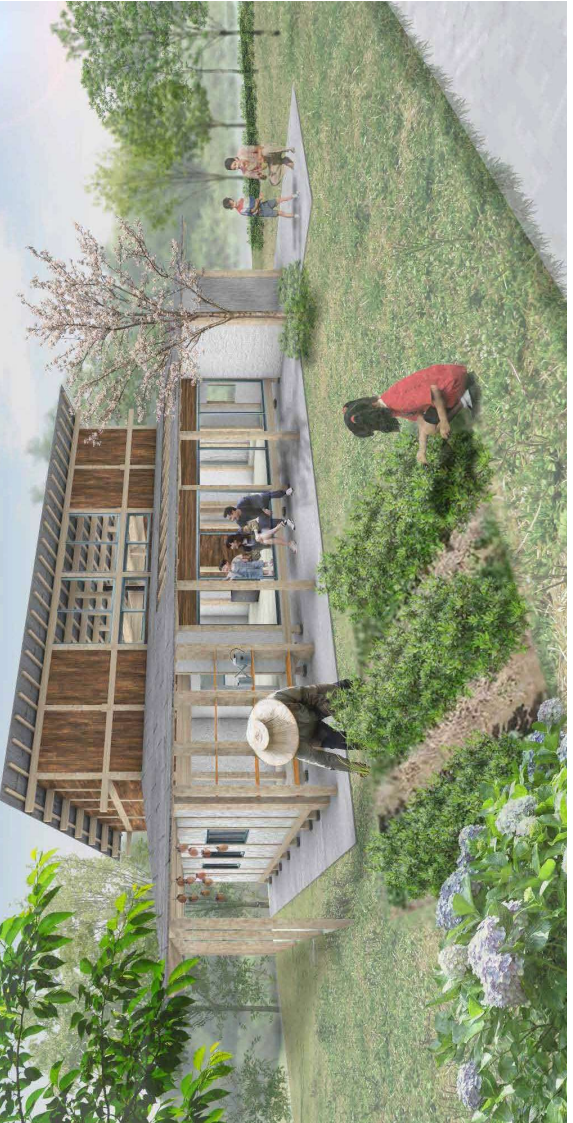
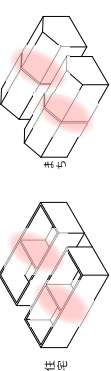


# “間”を住みこなす



## 1. 忘れられた“間”



無縁を限りなく排除した住宅、コンパインドテ、現代の日本では建築から排除されてきた。そんな中、コロナウィルスの影響で制約された暮らしを思い出し、私たちは住環境や暮らしに本来あるべき“間”の必要に気づかされた。

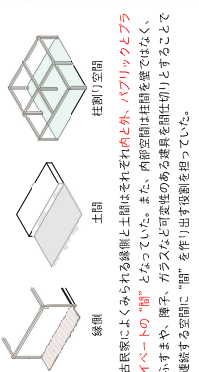
## 3. 建物の衣替え

私たちに、季節の循環によって衣服を変える衣替えという慣習がある。季節や気候風土が異なる日本において、衣服だけでなく常に私たちの暮らしを守ってくれる家も衣替えする必要があると考える。



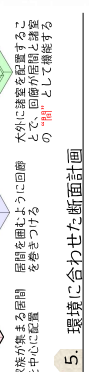
暖をとることに伴って、建物の内部空間に蓄積する熱が、空間にアクセスしやすくなる。取捨可能な建具を仕切りとして併用することで、外気環境に合わせながら、自然な住環境を整えることができる。建具の仕切り方で個室として、人数が異なる場としてなど、その場に応じた空間を演出することができる。また、季節や気候によって変わる居住性は、空間を定義するだけでなく入れ替える手がかり、家族のコミュニケーションを促してくれる。

## 2. 古民家を持つ“間”



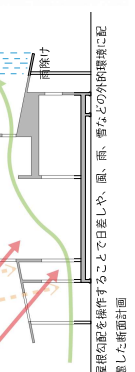
古民家によくみられる縁側は土語はそれぞれ、**バロックエラス**、**イベントの“間”**となっていた。また、内部空間は柱間を境とせず、ふすまや、障子、ガラスなど可変性のある建具を仕切りとすることで連続する空間に、“間”を作り出す役割を担っていた。

## 4. 空間構成



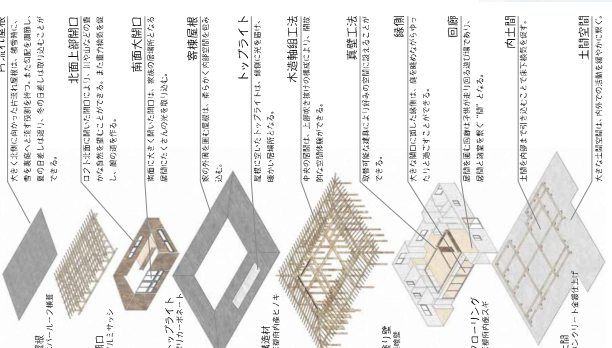
家族が集まる部屋を中心に配置することで、開放的な空間を演出することができる。

## 5. 環境に合わせた断面計画



屋根の庇を操作することで日差しや、風、雨、雪などの外環境に合わせた断面計画

## 6. 構成ダイアグラム

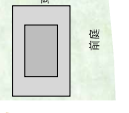


土留空間: 大さくは、雨や雪の侵入を防ぐ。

## 8. 面積表

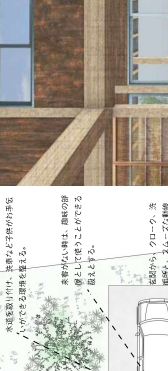
|                              |
|------------------------------|
| 1F 床面積: 126.3 m <sup>2</sup> |
| 2F 床面積: 7.5 m <sup>2</sup>   |
| 建築面積: 126.3 m <sup>2</sup>   |
| 延床率: 21.5%                   |
| 容積率: 22.7%                   |

## 9. 3つの庭

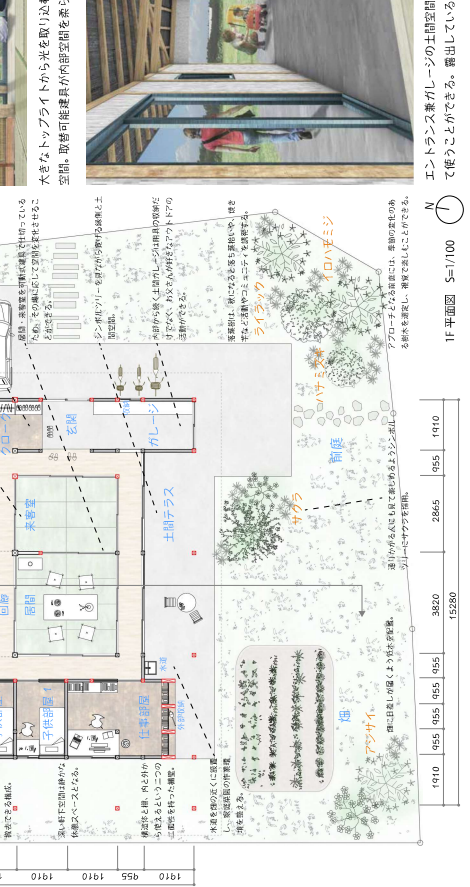


内部空間にさまざまな「間」は、一定の活動に固められない自由な空間を持っている。気分やその日の気候によって仕事場を変えたり、日々の暮らしの中に新たな遊び場を与えてくれるだろう。

## 7. 多様性を許容する“間”



大きなトップライトから光を取り込むため、窓枠が埋まる間は明るく暖かい空間。取替可能な建具が内部空間を柔らかく仕切り、レイヤー状に空間が連続する。



1F 平面図 S=1/100  
2F 平面図 S=1/100  
断面図 S=1/50